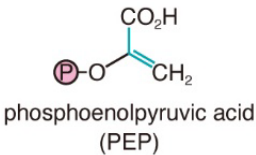
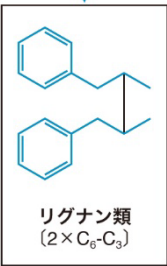
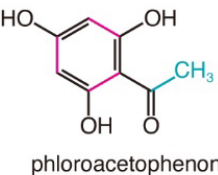
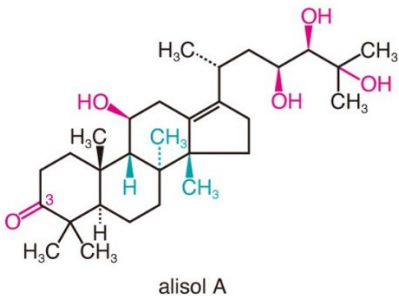
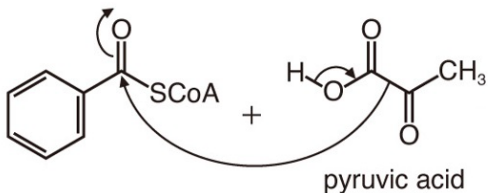


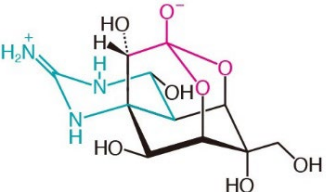
正 誤 表

「コンパス天然物化学（第1刷）」

下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
16	図2・3 (逆相系の構造式を修正)	略 右図に差し替え	極性官能基が少ない化合物 (疎水性の化合物) 極性官能基が多い化合物 (極性の高い化合物) 順相系 固定相との相互作用が弱い →移動相によって移動させられやすい 固定相と静電的相互作用しながら 移動 (移動が遅い) 小さい ← 順相系での溶出力 → 大きい 疎水性 (極性が低い) クロマトグラフィーで よく利用される溶媒 親水性 (極性が高い) 大きい ← 逆相系での溶出力 → 小さい 逆相系 極性官能基が少ない化合物 (疎水性の化合物) 極性官能基が多い化合物 (極性の高い化合物) 固定相と疎水性相互作用しながら 移動 (移動が遅い) 固定相との相互作用が弱い →移動相によって移動させられやすい 図 2・3 順相系と逆相系のイメージ

62	図 5・1 (PEP の構造式)	略 右図に差し替え	 phosphoenolpyruvic acid (PEP)
62	図 5・2 (リグナンの基本骨格)	略 右図に差し替え	 リグナン類 (2 × C₆-C₃)
69	図 5・6 (phloracetophenone の構造式)	略 右図に差し替え	 phloracetophenone
107	alisol A の構造式	略 右図に差し替え	 alisol A
149	図 7・13 (pyruvic acid の構造式)	略 右図に差し替え	 pyruvic acid

185	tetrodotoxin の構造式	略 右図に差し替え	 tetrodotoxin
-----	-------------------	--------------	--

2024 年 12 月 10 日
株式会社南江堂